

# 「令和の時代の滋賀の高専」 最適県有地の提案



次代の滋賀を支える

高等専門人材の育成を野洲の地で

令和4年4月

野 洲 市

## 「滋賀の高専」設置に係る最適県有地の提案について

平素は、野洲市政の推進につき格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、滋賀県におかれましては、滋賀初となる高等専門学校の設置に向け検討を重ねられ、昨年12月に構想骨子（素案）を公表されました。

ここに示された「これからの滋賀を支える価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む高等専門人材を育てていく」という設置目的や、様々なキャリアパスにつながる学びの提供、共創による産業の活性化及び地域と地球の課題の解決という設置意義に本市は強く賛同します。

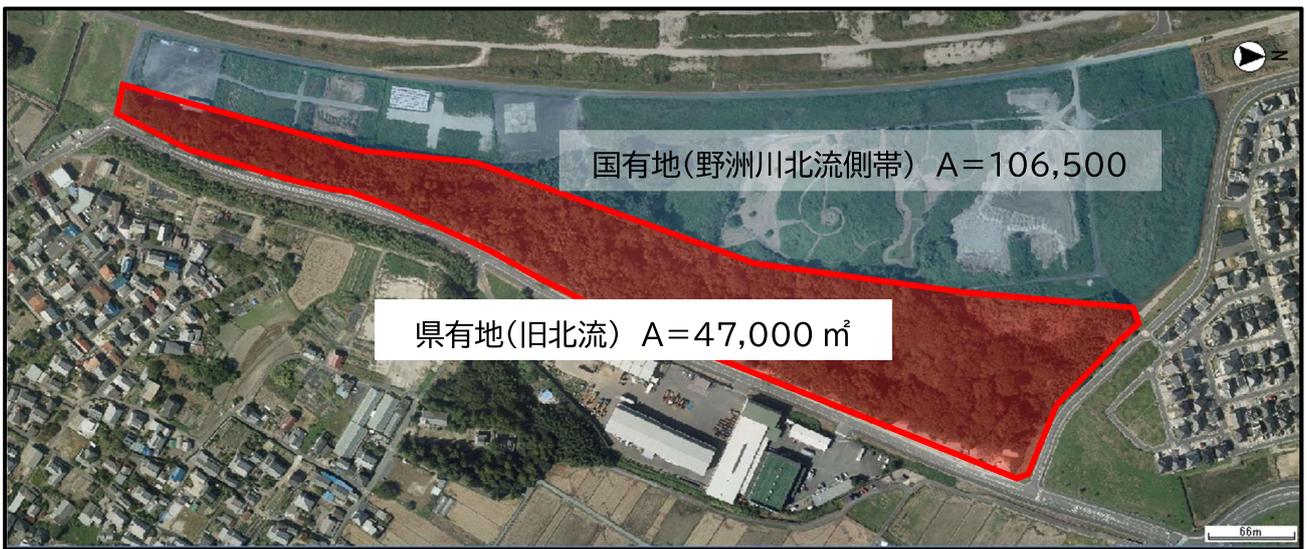
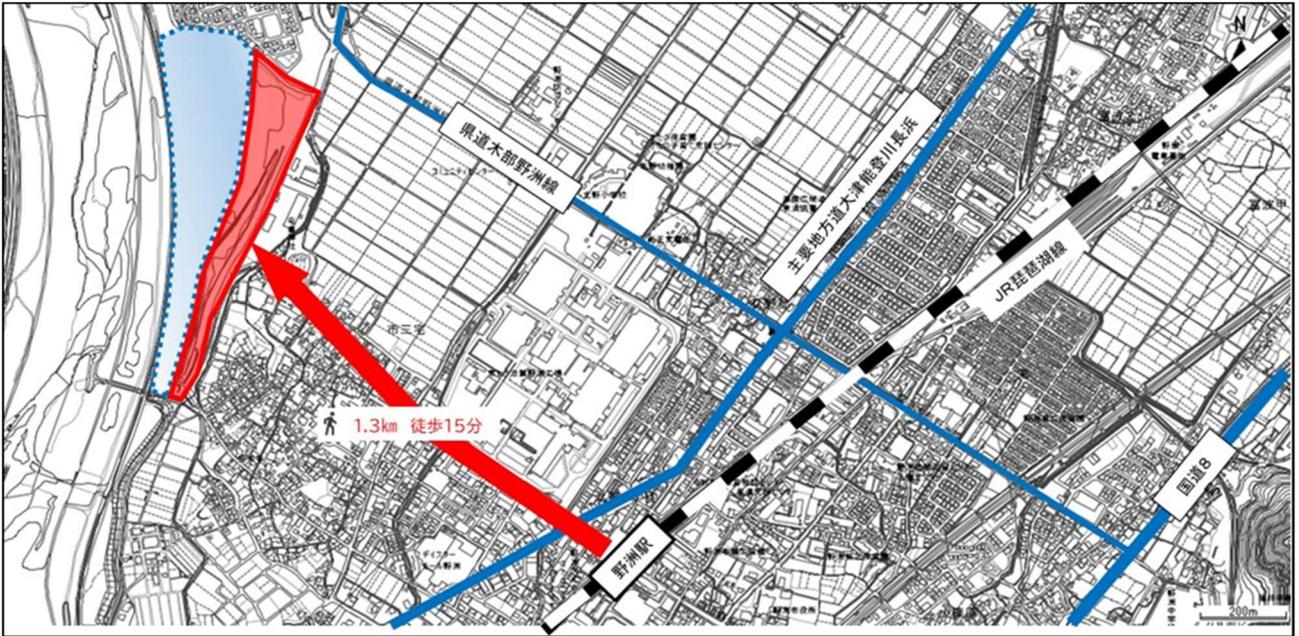
つきましては、次代の滋賀を支える高等専門人材の育成に向けた高専の設置場所について、これまで積み重ねられた検討を踏まえ、本市内の県有地が最適と考え、地域や産業界が一体となって、その理由を付して提案いたします。

令和4年4月

滋 賀 県 知 事  
三 日 月 大 造 様

野 洲 市 長  
栢 木 進

# 【提案地】野洲市市三宅地先 県有地



野洲川改修事業で廃川となった旧北流跡県有地 約 47,000 m<sup>2</sup>

+) 隣接国有地 第1種及び第2種側帯 (河川区域)	約 106,500 m <sup>2</sup>
計	約 153,500 m <sup>2</sup>

# Concept

## 自然を感じる、人がつながる

- ◆河辺に位置し、木々に囲まれた自然豊かな“野洲”
  - ・河辺林の保全を通じ、環境への意識を醸成
  - ・自然を守り育てる周辺住民との連携など、自然を介した地域との共創
- ◆学びが広がり、深まる“野洲”
  - ・周辺に多く立地する企業との共創による、高度な技術力を持った専門人材の育成
  - ・河川側帯という立地を生かした、防災教育や防災テクノロジーの追求
- ◆のびのびと、過ごしやすい“野洲”
  - ・JR 琵琶湖線野洲駅から北西に約 1.3km、徒歩約 15 分  
京都駅～野洲駅間は約 30 分で、県内のみならず県外からの通学も容易
  - ・県有地約 47,000 m<sup>2</sup>の他に、国有地や市有地が隣接し、校舎やグラウンド等を設置しても、なお広々とした空間

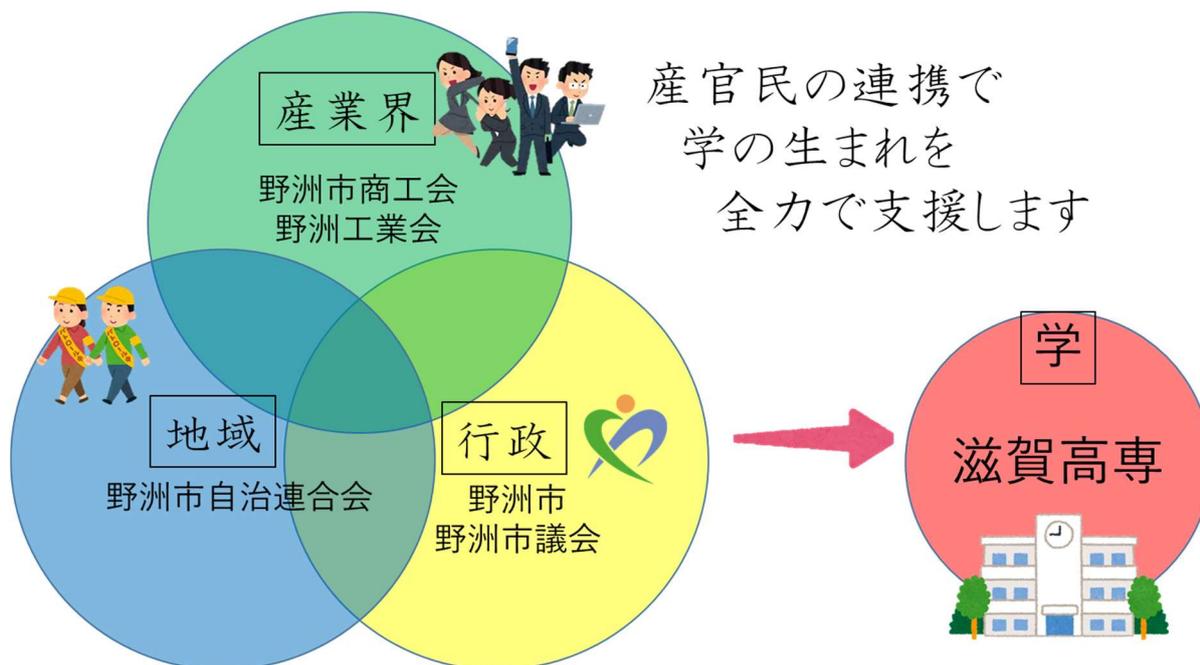


# Consortium

## 野洲市に滋賀の高専が開校されるまで皆が力を合わせます

次代の滋賀を支える高等専門人材の育成を目的に、令和9年度の高等専門学校の開校に向けて、昨年12月15日に構想骨子(素案)を公表、本年1月31日には、設置場所の決定方法が示されました。

「滋賀の高専」の本市県有地への誘致については、市はもちろんのこと、野洲市議会、そして産業界からは、野洲市商工会、野洲工業会、また、地域として、野洲市自治連合会からも、賛同をいただいております。令和9年度の開校に向け、それぞれができる範囲で、互いに力を合わせてまいります。



## 市提案地の設置場所要件(案)適合状況



### 校地要件

#### ①土地の規模

- ✓ 望まれる建物が建設可能な広さである

#### ②土地の法令上の要件

- ✓ 法令上、高専の設置に問題がない

#### ③土地の安全性

- ✓ 自然災害などに対して安全であり、避難場所としての利用も可能である

①規模は、県有地で約 47,000 m<sup>2</sup>です。また、隣接する国有地約 106,500 m<sup>2</sup>において、河川防災ステーション計画があるため、本市において事業化に向けた検討を進めます。

②市街化調整区域ではありますが、都市計画法に基づく開発許可基準の適用が可能と判断しています。

③一級河川に隣接しますが、改修済みの野洲川堤内であり安全は確保されており、災害時には地域住民の避難場所として利用が可能です。



### 周辺要件

#### ④学びの場所としての魅力

- ✓ 近隣に、課題発見型の多様な学びや課外活動のための魅力あるフィールドが存在する

#### ⑤周辺の理解

- ✓ 設置に関し周辺住民の理解を得ることができる

#### ⑥教育上のふさわしさ

- ✓ 風俗営業、興行場等が周辺に立地していない

④河川と河辺林、集落に囲まれた自然豊かな立地です。また周辺には国の経済を牽引する大手電子部品事業所などが複数存在します。

⑤提案地の自治会や学区自治連合会には、高専立地提案を説明し理解をいただいています。

⑥周辺に風俗営業や興行場等は立地していません。



#### 連携要件

#### ⑦他の教育機関、産業界、地域との連携

- ✓ 大学、高校、研究機関などとの連携により、相乗効果を発揮することができる
- ✓ 産業界や地域との共創が見込まれる
- ✓ 一定程度の後背人口がある

⑦市内には、国の経済を牽引する大手電子部品事業所などが複数存在し、高専立地を歓迎しています。また、教育内容を開発や製造に関わる事業所と協議して決めることなどで共創が可能です。

#### コスト要件

#### ⑧整備・運営費の低減

- ✓ 用地取得・造成などに要する費用が低廉であり、手続き・工事に要する期間も短い
- ✓ 近隣の既存施設の活用などにより、整備・運営に係るコストを低減させることができる

⑧現状は県有地であり、用地取得費用はかかりませんが、造成に係る費用は必要となります。



#### 交通要件

#### ⑨通学の容易性

- ✓ 交通アクセスに大きな支障がない

⑨JR 琵琶湖線野洲駅から徒歩約 15 分の好立地であるため、学生寮の設置が不要で、県内だけでなく京都市内も通学圏内となります。このため、多くの県外からの志望者も見込めます。

(問い合わせ)

野洲市政策調整部 企画調整課

TEL 077-587-6039(課代表)

Mail kikaku@city.yasu.lg.jp

野洲市自治連合会

野洲市商工会

野洲工業会

野洲市議会

野洲市